優 秀 賞

流れる水のその先は

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校

三年 山 本 華 穂

自分の家から流れる水が、どこへ、どのようにして流れていくのか、どれほどの人が知っているだろうか。私も、社会科の授業で下水道の仕組みや役割を学んだことはあるが、当時それはあくまでも教科書の中の話だった。けれどもある日、私はそれが家の外で大きな音を響かせながら造られていくのを目の当たりにした。「あ、この仕組みは本当に私達の生活のすぐそばにあるんだ。」と、その時初めて実感した。

今の家に引っ越し少し前、母に「新しい家は浄化槽なんだって、下水道に変える工事をしないといけないんだよね。」と話をされた。私は、その時はまだ関心を持っていなかったと思う。正直、自分の

家の水がどうなっているのか、なぜ下水道に変える工事をしなければならないのか、考えたこともなかったのだ。しかし、家の外で鳴り響く工事の音を聞くうちに「なぜこの工事が必要なのか」「浄化槽と下水道は何が違うのか」そんな疑問が次々と浮かんできた。きっと、それらは私達の生活になくてはならないものはずだ。そうして私は、水の仕組みを自分のこととして考えるようになった。

私は引っ越し前の母との会話では、「浄化槽から下水道に変えるならば、下水道の方がメリットが多いのかな。」と考えていた。しかし調べてみると、浄化槽と下水道にはどちらもメリット・デメリットがあることがわかった。まず、浄化槽は自分の家です水をきれいにする仕組みで、下水道は水を遠くの処理場まで運ぶ仕組み、という違いがある。浄化槽は小さな工事ですぐに使えすが、においが出るし、環境への負担もあるという。一方で、下水道は、皆さんの家の水をしっかりきれいにできるが、整備するのに、時間もお金もかかるのだ。そこまで調べて、私の家が下水道の工事したのは、地域全体の水を

きれいに保つたためなのかもしれないと思った。

下水道や浄化槽などのインフラは、私達の生活を支える大切な役割を果たしていることを改めて学んだ。これらは単純な設備ではなく、私達が日々使う水を無駄にせず、きれいにし、自然に戻すために必要不可欠な存在なのだ。水は流れては蒸発し、雨となってまた降り注ぎ、自然の中で循環し続ける。私達が使った水も、適切に処理されれば、再び自然の一部となって戻っていくことができる。浄化槽や下水道といった仕組みがうまく機能していることで私達が安心して生活できることを実感した。家の中で使った水がどうなるのか、どんな仕組みできれいになっているのか。今まで知らなかった「水のゆくえ」を、初めて辿れた気がした。

これまで私は、水を使うことが当たり前で、その後どうなるのか考えたこともなかった。けれども今回の経験を通して、使った水をきれいにして自然に返す責任も私達の生活に含まれていることを知った。これからは、水を「ただ使うだけのもの」としてではなく「自然の中を旅していくもの、使うたび

に還していかなければならないもの」として考えていきたい。そして、私達が安心して水を使えるのは、目に見えないところで水の旅を支えてくれているインフラがあるからだということも忘れずにいたい。自分の身の回りの、様々な生活の仕組みに目を向け、見えないところで世界を支えてくれている人たちへの感謝の心を持ち、私も、自然の循環を支えるような行動をしたいと思う。そうやってこれからも、私達の生命を育む水とそれを守る仕組みを意識しながら、水の大切さを忘れずに日々を過ごしていきたい。流れる水が旅する先にあるのは、きっと私達の未来なのだ。